



2023  
11. 8 (水) 12:10  
12:50

オンライン  
(Zoom)



登録はこちら

No.

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

# Brown Bag Seminar 特別回

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_8W56t62vSC-1\\_kou93XUvg](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_8W56t62vSC-1_kou93XUvg)

司会：清水 周次 副理事 (Q-AOS 機構研究統括)



Asia Week 特別講師



KYUSHU UNIVERSITY INSTITUTE  
for ASIAN and OCEANIAN STUDIES



久保田 有香 事務総長補佐 (日本アセアンセンター)

外務省南東アジア第一課および経済条約課を経て、2012年より国際機関日本アセアンセンターに勤務しています。2018年より事務総長補佐をしています。国際基督教大学教養学部(BA)および同行政学研究科(MA)をへて、オランダのライデン大学で国際法修士(LLM)を取得しました。専攻は、国際法(国際経済法、国際人権法)で中央大学にて法学博士号(Ph.D)を取得しました。岩手県出身です。

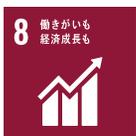
## 日本と ASEAN の関係 これまでの50年、これからの50年

### Key Words

外交 国際関係

国際協力 日本

ASEAN アジア



2023年、日本と ASEAN(東南アジア諸国連合)は友好協力50周年を迎えます。この記念すべき年に、これまでの多岐にわたる日本と ASEANの関係を振り返るとともに、わたしたちがこの地域に生きる一市民として、どのように今後の50年に貢献できるのか、楽しくお話できればと思っています。

2023

11.15 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_8lSK2l0jRjeRlGHKMNDqcw](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_8lSK2l0jRjeRlGHKMNDqcw)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# 廃棄物を循環資源とする 持続型環境技術の開発

司会：銭 琨 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



## Key Words

廃棄物

循環資源

処理

有効利用

持続型環境技術

## 島岡 隆行 教授

九州大学 工学研究院 環境社会部門 水・資源循環システム学



京都府の出身です。1989年3月、九州大学大学院工学研究科博士後期課程水工土木学専攻を単位修得の上、退学しました。1989年4月、工学博士の学位を取得しました。1991年4月より福岡大学工学部助教授、2001年4月より九州大学大学院工学研究院の教授を務めています。その他、ニューハンプシャー大学(1999-200)、ハルピン工業大学(2004-)、同濟大学(2006-2009)、青島理工大学(2015-)の客員教授、土木学会副会長(2016-2017)、廃棄物資源循環学会会長(2016-2017)を務めました。埋立廃棄物の生物・物理・化学・鉱物学的安定化及び物質移動に関する研究に従事しています。博士学位を受けた多数の留学生がアジア諸国で活躍しています。廃棄物学会論文賞(1997)、廃棄物資源循環学会論文賞(2010)を受賞しました。主な著書は「資源循環再生学」「災害廃棄物」「東アジア環境学入門」です。

不均質で排出量の変動も大きい廃棄物の処理や有効利用においては、「持続型環境技術」が世紀を超えて用いられる環境技術と考える。持続型環境技術は、①自然の摂理に技術の基礎を置いている。②技術の機構が明快であり、外部要因の変動を受けにくく、普遍的かつ確実に機能する。③環境負荷、エネルギー、経済等の視点から持続型社会の構築に大きく寄与する。を要件とする技術と定義づけられる。都市ごみの焼却残渣が処分された埋立地の廃棄物地盤に見出した普遍的に生じる諸現象を循環資源化のための技術へと展開した事例を紹介する。

2023

11.22 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_kxaxNGc3QWK7\\_KHOLrFyuA](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_kxaxNGc3QWK7_KHOLrFyuA)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# 3D ビジョンを用いてデジタルと物理的世界との架け橋を作成する

司会：キム シューマツハ 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)

3 すべての人に  
健康と福祉を8 働きがいも  
経済成長も9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう11 住み続けられる  
まちづくりを12 つくる責任  
つかう責任

## Key Words

3D および 4D キャプチャー

デジタルヒューマン

ジェネレーティブ AI

インテリジェントマシン

**トマ ディエゴ ガブリエル フランシス** 准教授

九州大学 システム情報科学研究院 情報知能工学部門



トマ准教授はフランスの ENSIMAG (グランドエコール) から情報学および応用数学の修士号を取得し、日本の SOKENDAI (先端科学大学院大学) から博士号を取得しました。2012年4月から2015年3月まで、国立情報学研究所 (東京、日本) でポストドク研究員を務めました。2015年4月から2017年3月までは、九州大学 (福岡、日本) で JSPS ポストドク研究員でした。2017年4月から2022年11月まで、九州大学情報学研究院 (ISEE) の助教授を務め、2022年12月からは ISEE の准教授として活動しています。研究の興味は、3D ビジョンとコンピュータグラフィックスに関連しており、3D および 4D キャプチャ、デジタルヒューマン、AR/VR に焦点を当てています。トマ准教授はトップティアの学会やジャーナルで 50 以上の研究論文を発表し、さまざまな国際的なトップティアの学会やジャーナルの 100 以上の論文の査読を行っています。また、彼は 3DV 2020 のローカルチェアを務めました。彼の研究活動は、日本学術振興会 (JSPS)、JST、九州大学、Microsoft、Huawei、Panasonic などの国際企業からサポートされています。

このセミナーでは、3D ビジョン研究の経験とこの分野の未来について共有します。現代社会は機械に強く依存しており、これらの機械はデジタルの世界で情報を処理しますが、物理的な世界で人間と対話します。デジタルと物理的世界の間のギャップを埋めるために、私たちは新しい AI ベースの 3D ビジョンモデルの開発に取り組んでいます。私たちの研究は、人体のキャプチャとモデリングのタスクに焦点を当てており、これは人間と機械の対話を向上させるために基本的なことです。広範な画像とビデオのコレクションから学習する生成 AI を活用して、人体の形状、変形、さらにはさまざまなシーンでの意味的な相互作用に対する洞察を得ることができました。この研究は、機械をより高い自律性と知能に向けて前進させるために不可欠な大規模な 3D ビジョンモデルの開発に向けた重要な一歩を表しています。このセミナーでは、デジタルと自律的な人間のアバターの作成における最新のイノベーションを発表し、これらの進歩が人間と機械の対話の未来をどのように形作っているかを紹介します。

2023

11.29 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_pSUB8gbTS3q9PjxzowAKQA](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_pSUB8gbTS3q9PjxzowAKQA)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# 障害からはじまる アート／ケアの場の創造

司会：銭 琨 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



Key Words

障害／健全

芸術

社会包摂

長津 結一郎 准教授

芸術工学研究院



北海道生まれ。東京藝術大学大学院でアートマネジメント・文化政策を学び、障害のある人が関わる芸術活動の現場へのフィールドワークや参与観察で博士号を取得。慶應義塾大学で地域づくりの担い手育成の現場に関わる仕事を行ったり、多様性と境界について考える NPO 法人を立ち上げたり、障害のある人の芸術作品を紹介する展覧会の事務局をするなどの経験をした後、2016年に九州大学大学院芸術工学研究院に着任。現在は、芸術と社会包摂をテーマとして、聴覚障害のある人にとっての音楽を考える教育研究プロジェクト、劇場におけるアクセシビリティや対話型鑑賞についての実践、過疎地における農ある暮らしを文化の視点から考えるプロジェクトなどに取り組んでいます。

これまで私は、障害のある人が表現活動に関わる現場を共につくってきました。最近特に力をいれているのが、聴覚障害のある人と「音楽」について探究するプロジェクトです。こうした取り組みは、他者への「施し」を超えて、芸術それ自体や、障害それ自体の意味を問い直す可能性を秘めていると考えることができます。障害のある人と芸術との関わりから見えてくる新たな社会のあり方について、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。